

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2591200049		
法人名	医療法人社団真下胃腸科医院		
事業所名	グループホームりょうせんの郷 ユニット雅		
所在地	滋賀県栗東市纒5丁目15番38号		
自己評価作成日	平成29年1月7日	評価結果市町村受理日	平成29年3月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉センター		
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432番地 平和堂和邇店2階		
訪問調査日	平成29年2月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成24年3月に開設以来5周年を迎える。その人らしい生活を送っていただくために、「その人を知る」事に重きを置きケアにあたってきた。スタッフも定着しそのことの大きさが理解されてきている。またご家族とのコミュニケーションを大切に、ご本人はもとより、ご家族の思いを大切に、出来る限り希望に沿うように努めている。施設での様子を3か月に一度、書面にしてお渡ししている。地域に開かれた施設を目指し、年1回法人全体の納涼祭を開催し地域の方に参加いただいている。栗東市認知症カフェ事業の依頼を受け、今年度より法人全体で「認知症カフェ」事業に取り組む。同法人である真下胃腸科医院と医療連携を行い、入居者の健康管理に努めている。また、希望があれば看取り介護も行っている。開設以来3名の利用者様を看取らせていただいた。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR最寄り駅から徒歩8分の住宅街に鉄筋2階建ての事業所がある。近隣に運営母体の医院があり、建物の2階が2ユニットのグループホームになっている。同法人2つ目のグループホームであり、安心して明るく居心地の良い空間づくりで施設運営に活かしている。職員は「その人らしい生活」「地域の人々とのふれあい」「家庭的な生活」「介護職の資質の向上」の4つの理念実践に励んでいる。笑顔を絶やさず明るく、利用者や家族に接し、相談事も気楽に受けている。医院から定期的な訪問診療を受け健康管理体制がしっかりしており、利用者や家族には安心感がある。行政からの依頼で小中学生の体験学習を引き受けたり、平成29年より認知症カフェに取り組む予定である。気候の良い時期は外出する機会を作り気分転換に取り組んでいる。冬の寒い日は大きな窓から入る暖かい光を背にゆったりと生活している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議で4つの理念を全員で唱和し、理念の共有を行い実践に努めている。また理念を事業所の目につくところに掲示している。	地域密着型サービスを含めた4つの理念が掲げられ、目につくところに掲示している。2ヶ月毎の職員会議では全員で唱和し、会議での課題解決も常にこの理念に照らし合わせて判断をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入している。中学生の体験学習を積極的に受け入れている。また栗東市いきいきボランティア活動の方の受け入れを行っている。	中学生の体験学習、行政推進のボランティア活動にも協力している。事業所最大イベントの納涼祭には民生委員、市の長寿福祉課の職員、地域の人々の助力と参加を得ている。地域行事への参加はできていない。	地域への広報活動を工夫し、事業所の活動を理解して頂き、地域行事等の参加呼びかけを気楽にさせていただける様な関係構築を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	4月より栗東西中学校校区での「認知症カフェ」事業に法人全体で取り組む予定である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	レクリエーションの充実を図るため民生委員の方にお問い合わせしたところ、5回シリーズにて、色々なレクリエーションを提供していただけた。	自治会代表、民生委員、行政、家族代表等が参加、2ヶ月毎に開催し、事業所の活動報告、利用者状況、外部評価報告と取り組み状況などを議論している。特に納涼祭やボランティア活動受け入れに助力を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月月毎の運営推進会議に参加してもらい、情報交換を行っている。介護保険のサービスについて、不明な点等は尋ねている。	長寿福祉課職員とは常に連携を持ち、介護保険改訂内容やインフルエンザ発生状況等の情報を受け、事業所は活動状況を報告している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	離設等の事例があり、玄関は施錠している。全ご家族へ再度施錠についてのご意見をいただくべく、アンケートを実施した。3ヶ所のドアの内、1ヶ所は常時開錠している。身体拘束をしないケアの研修には、職員を参加させ、勉強会で伝達している。	身体拘束に関する研修を職員全員が受け、この基準をよく理解している。無断外出等の事例、外部侵入者への対応から家族の意見、行政の意見を踏まえ、建物2階のユニットの出入り口3ヶ所の内2ヶ所を施錠している。	チェック方法等を工夫し出入口は施錠しないような管理を希望する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が外部研修を受講したり、職員会議の場で学ぶ機会を設けている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度を利用されている方が4名おられるため、制度の内容等職員会議の場で学ぶ機会を設けている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に管理者が重要事項説明書に沿って説明し、その後契約内容も説明し納得いただいた上で契約となる。また質問事項等にはお答えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。ご家族とのコミュニケーションをとり、意見をいただくようにしている。年1回家族会と称し意見交換をする場を設けている。また年1回外部評価受審時に家族アンケートを実施され、意見をお聞きしている。	家族の来所時には会話を交わし、意見・要望を聞いている。年1回、家族会を開催し意見聴取に努めている。家族からの要望により利用者毎の写真をアルバムにし、毎年贈呈している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日々のケアの中で管理者が職員の意見を聞く機会を設けている。	2ヶ月毎に開かれる職員会議や年2回の職員の個人面談を通じ意見、提案を聞いている。職員の提案で勤務体制を見直し、より効率的な業務が出来るよう改善している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境について、意見が出たところは改善している。また、勤務時間について、子育て中のパート職員については、短時間勤務の希望が出たため可能とした。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内を全職員が見る場所へ掲示している。施設外の研修へ参加したり施設内での勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	滋賀県南部介護サービス事業者協議会に加入し、いろいろな研修に参加し交流を計っている。また法人内にグループホームがもう1ヶ所あるので随時意見交換をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所決定の段階で利用者様の情報収集に努めている。ご本人様やご家族様より希望事項や現状を詳しくお聞きしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に、ご家族の思いを聞いている。初回ケアプラン作成時にも説明し要望をお聞きしプランに反映させている。。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時にしっかりと話し合い何を必要とされているか、考える。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備、洗い物、掃除などを職員と入居者様が出来ることは一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族来所時に情報交換を行ったり、3ヶ月に一度ケアプランの見直しの際、利用者様の様子を書面でお伝えしている。外出等ご家族が行えることは提案し、出来る範囲で行ってもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人と交流が持てるように、面会など声掛けを行っている。 近所への買い物などの外出を積極的に行っている。	家族にも呼びかけ馴染みの美容院、外食の機会をもっている。事業所は面会に来られた人に気楽に再来してもらえる様お願いしている。隣接のデイサービス来所者にも馴染みの方がいて、交流を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎月カンファレンスを開催し、入居者同士の関係についても話し対応している。 職員が間に入り、関係構築に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も希望があれば必要に応じて連絡と相談は行っていく。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員皆で、利用者様毎に3ヶ月に一度カンファレンスを行い、日々の本人の言動や、表情などの情報を記録に細かく残し、職員間で情報の共有をしている。	希望、意向をはっきり表現できる人は18人中9人である。希望、意向表現が困難の利用者には日常の表情把握、家族の意向を参考に本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族の協力を得て、情報をもらっている。入居前に介護サービスを利用されていた方は前担当介護支援専門員に情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の利用者様の様子を介護記録に記入し、申し送りノート等により情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月毎にカンファレンスを行い、ケアプランの見直し後、家族に説明と同意のサインをもらっている。	3ヶ月毎に全職員参加しケース記録や家族の意向を基に介護計画を作成している。家族に説明し署名捺印を得ている。状況に変化があれば、医師の意見も含め、見直し計画を作成、その都度家族の署名捺印を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った記録を行っている。勤務交代時の申し送り事項をノートに記入し、全職員が情報の共有と把握を行えるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて福祉用具導入の相談や購入を、他の事業所と連携して行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	三味線、ハンドベル、フラダンス、傾聴のボランティア様に来ていただいている。訪問美容室を利用したり近隣のスーパーへ希望の品物の購入するため職員が同行している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医の説明をし、納得をいただいてから当法人と医療連携を結んでいる。月2回の往診をうけ、体調不良の場合は緊急往診もあり、体調管理には注意している。	利用者は家族の希望により法人の医院をかかりつけ医として定期的な往診や緊急往診を受けている。隣接する敷地の歯医者や他の専門医を受診する時は職員が送迎支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人の医院の看護師と常に連携、相談を行っている。緊急時の対応も可能。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	必要時、連携医院と情報交換を行っている。入院時には施設での情報を提供し、退院時には、必ず病院での退院に向けたカンファレンスにご家族と共に参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所であることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	平成26年度からの新規利用者様には入所契約と同時に重度化した場合における指針を説明している。それ以前に入所された方には順次説明をしていく。	重度化した場合における指針を文書化し、入居時に本人、家族に説明して同意書に署名捺印を得ている。今年度は1名の看取りを行い常に本人、家族の意向を確認し医師、看護師、職員が連携して終末期の支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会で学ぶ場を設けている。緊急対応の勉強会も行っている。緊急時のマニュアルを作成し、緊急連絡網も整備している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防避難訓練を行っている。車椅子対応の利用者様が増加し、施設が2階にあるため、まずは一時避難を徹底して行っている。	消防署の指導を得て年2回の消防避難訓練を昼間実施している。消火器訓練も実施、緊急連絡網や対応マニュアルも作成している。夜間想定訓練と地域との協力体制が得られていない。	消防署の指導の下、夜間想定訓練を実施して欲しい。地域住民の協力も得られるように自治会等に働きかけて欲しい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇、声掛け、介護方法は尊厳のある対応をするよう周知している。職員会議においても、尊厳をもった声掛けを徹底している。個人情報事は事務所で管理している。	一人ひとりの尊厳を大切に声掛けや接遇を行うよう心掛けている。権利擁護の研修会に出席し職員間で認識を深め合い、日常のサービスに活かしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の訴えにはできる範囲で対応している。買いたい物や、食べたい物は、随時一緒に買い物に行くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の要望に答えるように努めている。食事の時間など出来る範囲で本人の要望に沿って行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の整容や身だしなみが大切な事は会議などで随時指導している。毎月訪問美容業者が来られるので随時ヘアカット、ヘアカラーをしてもらっている。着用する衣類もご自身で選んでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は職員も一緒に食べ、会話をしながら楽しく食事が行えるようにしている。食事の準備や片付けは利用者様と一緒にしている。	平日の朝、夕食及び日曜祝日は3食共、食材の配達を受け、職員が調理し提供している。平日の昼食は法人の厨房で調理したものを提供している。利用者の希望するメニューを聞いて調理することも行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は栄養士によってバランスのとれた献立を考えている。嗜好により食べられない物は代替品で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを必ず実施している。介助が必要な方には介助を行っている。必要時、連携の歯科医と相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用して排泄パターンを把握し、本人に合った時間に誘導を行うなどの工夫をして清潔の保持に努めている。	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレへの声掛けや誘導に努めている。夜間はポータブルトイレを居室に設置するなど自立支援に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取を促し、水分摂取量も把握している。排泄確認も実施し、排便が確認できない場合は主治医に相談のもと、軟下剤等を処方してもらい便秘にならない様注意している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	各人週3回の入浴日を設けている。ご本人の希望により1時間程度要して入浴される方もある。	日曜日以外に週3回、利用者の希望に合わせて入浴している。入浴を嫌がる人には各人の癖とタイミングをみて入浴して貰う様に努めている。入浴介助の必要な人には2名で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室で過ごすことは自由に行ってもらっている。必要者には、安楽な体位で入眠できるように検討実施している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報リストを作って職員で情報の把握に努めている。各利用者様の個人ファイルには、現在服薬している薬の最新情報をファイルしており、職員は薬品名、効能、副作用について知ることができる		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式のアセスメント用紙を使用し、カンファレンスごとに本人についての思いや生活の情報の把握に努めている。役割活動や、個人で楽しめることも提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春から秋にかけて様々な外出を企画し実施している。個人の買い物なども本人の意向に沿って行っている。その他に、散歩や施設の花壇の水やり行い、外出の機会を設けている。ご家族にもお願いし、外出していただいている。	季節に合わせて桜、菜の花、アジサイ等の観賞に出かけたり、近隣へ散歩に出かけている。天気の良い日はベランダで日光浴をしたり、プランターや花壇の手入れをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本はご家族よりお預かりしたおこづかいを施設金庫で管理している。一部ご自身で財布を持参されている方もおられるが、自己管理をお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の引き継ぎは行っている。携帯電話所持の入居者の援助も行っている。手紙のやり取りも自由に行ってもらい、援助も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔保持の為に毎日掃除を行っている。明るく暖かな印象が持てるようにしている。安定した室温であるため季節感がわかり辛くなるため、室内飾りや壁面画等で工夫をしている。	共用スペースの掃除は行き届いており清潔感がある。季節感の有る塗り絵、貼り絵等を飾っている。窓も大きく太陽がたくさん入って来るレイアウトになっている。日常的に音楽を流し和やかな雰囲気づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで区切ってくつろげるスペースの確保を行っている。天気の良い日はテラスで過ごすなどの工夫を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お仏壇を置いたり、カーペットを敷いたり、馴染みの家具を持ち込んでもらっている。壁に写真を貼るなど自由に使ってもらっている。	今までの使い慣れた家具を持ち込んで気持ち良く過ごせるようにしている。入口には手作りの絵馬を飾り、家族の写真等も壁に貼っている。仏壇を持ち込んでいる利用者もあり居心地の良い居室づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	毎日、食事のメニューをホワイトボードへ記入したり、日めくりカレンダーなどで日にちなどが分かるように提示している。また自室がわかるように表札を掲げる等の工夫をしている。		

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	年2回の消防訓練は実施しているが、夜間想定 の訓練が実施できていない。	年2回の訓練の内、1回は夜間を想定した訓 練を実施したい。	夜間想定避難訓練を計画し、実施する。また 消防署職員へ訓練への参加を要請する。	6 ヶ月
2	2	開設満5年を迎え、徐々に地域の方との関わり も増えてきたが、利用者様が地域行事へ参加 するまでに至っていない。	利用者様が地域行事へ参加できるようにし たい。	自治会長へ地域行事の予定を聞き、参加可能 な行事を抽出し、参加し出かける。	12 ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。